ヒロシマ ユネスコ

戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。……政府の政治的及び経済的取極（とりきめ）のみに基く平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

（ユネスコ憲章前文より抜粋）

広島ユ協・韓国大邱ユ協

第三次姉妹協定調印

大邱ユ協訪問団が来広

広島ユネスコ協会と韓国ユネスコ大邱協会は、二〇〇〇年六月に姉妹協会提携に関する協定を結び、二〇〇四年十月には、これを継続する協定（二次協定）を結びました。この間相互の訪問を中心として様々な市民交流を深めてきました。

そして、大邱協会から四回目の訪問団を迎えたこの十月三日、さらに交流を深めようと第三次協定の調印式を行いました。

交流事業は、国際理解に関する事項、文化・芸術・学術及び教育に関する事項、青少年に関する事項、そのほか、両協会が希望する事項を内容とし、相互訪問を中心に、今後四年間、こうした事業を一層拡充させることとしています。

調印式は、去る十月三日、中区袋町のエンジェルパルテで行われました。まず、法瀧寺ポップスオーケストラ（指揮・大野徹）による日韓両国の国歌演奏に始まり、訪問団員の紹介の後、駐広島大韓民国総領事館の許徳行総領事、広島県日韓親善協会の安東善博会長立会いの下、広島ユネスコ協会北川建次会長と大邱協会孫基洙会長が協定書に署名し、両会長の固い握手で締めくくられました。

《写真＝許駐広島大韓民国総領事（左端）、安東広島県日韓親善協会会長（右端）立ち会いの下、協定書に調印する孫大邱協会会長（中央左）、北川広島ユ協会長（中央右）》

訪問団歓迎会を開催

第二次姉妹協定による最後の訪問団（団長・孫基洙大邱協会会長）は去る十月三日に広島入り、原爆資料館の見学や慰霊碑参拝の後、午後六時から開かれたエンジェルパルテ（中区袋町）における協定調印式に臨みました。そして、調印式の後、同会場で開かれた訪問団歓迎会（約六十名参加）に参加しました。

歓迎会は、当協会木村進匡副会長の開会挨拶のあと、来賓の駐広島大韓民国総領事館許徳行総領事並びに広島県日韓親善協会安東善博会長から祝辞をいただき、広島市の島本登夫市民局長のご発声による乾杯で始まりました。

各テーブルは、訪問団員を囲む形で配席され、和やかな雰囲気の中で会食・歓談の時間が流れました。この間、法瀧寺ポップスオーケストラの皆さんが、ポップスやジャズ演奏で会場の雰囲気を盛り上げてくれました。

宴が盛り上がり、名残が尽きない中で、当協会竹澤臣子副会長による閉会挨拶、同副会長の指揮の下、全員でアリランを合唱し、今後の一層の交流促進と相互の発展・協力を誓い合いました。

歓迎会終了後は、別会場で日韓カラオケ大会が開かれ、夜遅くまで相互に自慢の持ち歌を披露し合い、親交を深めました。

一行は、翌日から当協会藤井正一常任理事の案内により、高知、倉敷、下蒲刈島を巡り、六日夕刻、下関から帰国いたしました。

広島市と大邱市が姉妹都市縁組を結んで以来、数多くの市民団体や機関が姉妹協定を結び、それぞれが様々な交流事業を行っています。広島ユネスコ協会も、提携九年目を迎えて新たな展開を模索しています。皆様のご意見をお寄せくださるようお願いします。

＜大邱協会訪問団員＞

◇団長＝孫基洙（会長）
◇幹事長＝金孝哲（副会長）
◇団員＝宋承達（副会長）、呉喆漢（副会長）、李寿子、全命秀

（敬称略）

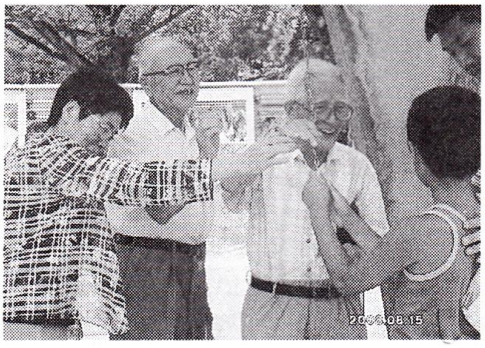
編集・発行／広島ユネスコ協会（広島市中区袋町6番36号　広島市まちづくり市民交流プラザ　メールボックス89号気付・☎(082)823－2466＜事務局長宅＞）

原爆の子の像前で「平和の鐘」
高らかにヒロシマの願いを発信

広島ユネスコ協会は、国連提唱の「国際平和文化年」の二〇〇〇年から毎年八月十五日正午、平和公園内の「平和の鐘」を撞いてきましたが、今年は、建立五十周年を迎えた「原爆の子の像」に会場を移して開催いたしました。

「平和の鐘」の趣旨＝「先の戦争で亡くなられた広島、アジア、世界の犠牲者の冥福を祈り、その反省に立って核兵器をなくして世界平和の実現を願う」に加えて、今年は「原爆の子の像」が象徴する「未来を担う世界の子どもたちの命と平和を守る」誓いの場として原爆の子の像の鐘の音とともにヒロシマの願いを発信しました。

午前十一時過ぎ、在広マスコミのほぼ全社の取材カメラが並ぶ中、井尾義信常任理事の司会で開会。北川建次会長の主催者挨拶のあと、ゲストのメッセージの朗読へ。最初に、安藤友希さん（広島大附高二年生・ユネスコ班代表）が、英文・邦文のメッセージを確信に満ちた表情で読みあげ、次いで「原爆の子の像」のモデルの佐々木禎子さんの母校広島市幟町中二年生・今西真美さんが、サダコ先輩の心を体しながらメッセージを読みあげました。（別記）



そして、国の内外でヒロシマを発信し続けているNPO法人ANT-Hiroshima代表・渡部朋子さんが、佐々木禎子さんをテーマにパキスタンの画家と共同制作し、刊行間もない絵本「サダコの祈り」を紹介しながら、五年前に出版された佐々木さんの物語・絵本「おりづるの旅」の翻訳が海外で広く読まれていることにふれ「今の子どもたちも平和を求める気持ちを忘れないで」とあいさつしました。この後、イタリア女性旅行客の「サダコが自国でも知られている。ここを訪ねて感動した」との飛び入り発言もありました。

やがて正午、折り鶴のレイ（高橋副会長提供）を首に掛けた北川会長、安藤さん、今西さんらが打つ鐘の音を合図に参加者一同黙祷。続いて参加者、居合わせた市民ら百二十人が次々に鐘を鳴らしました。この模様はテレビ、新聞で大きく報じられました。毎年八月十五日を中心に全国各地のユネスコ協会が鳴らす「平和の鐘」に今年は七十一の協会が参加しました。

（常任理事・亀井　章）

≪メッセージ≫（要旨）

広島大学附属高等学校２年　安藤友希さん

「昭和18年１月７日、佐々木禎子さんがこの世に生を受け、小学６年生の時白血病に。昭和30年10月25日、短い生涯を終えました。20年８月６日から10年も経っていました。同級生たちは禎子さんをはじめ亡くなった子どもたちの慰霊碑をつくろうと奔走、３年後「原爆の子の像」が出来上がりました。

ヒロシマの子として平和とは何かを真剣に考え、その実現に向けて歩むためには、63年前の広島で悲惨で苦しい経験をした人たちのことを知ることが原点だと考えます。そして、世界中の人たちに広島で起こったことを伝え、それについて考えてもらうこと、そして禎子さんのような人をもう出さないためにどうしたらよいかを皆で話し合うことが必要です。

世界は核の脅威だけではなく環境、貧富の差、食糧危機と大変な課題を抱えています。それらの課題は人々の心を蝕み、争いへと導きます。平和な世界を築くためには直接戦争につながる以外の素因にも目を向け解決していかなくてはなりません。

戦後の日々を生き抜き、広島を復興に導いた人々に心から感謝しています。私たちが打つ鐘の音が人々の平和を祈る声となり、大きな響きとなって世界中を包むことを信じています。

広島市立幟町中学校２年　今西真美さん

幟町中学校１年の佐々木禎子さんの死に衝撃を受け、二度と戦争が起きないよう像を建てる運動を起こしました。そして、毎年「原爆の子の像」碑前祭を行っています。私たち幟町中学校が主催し、広島市の子どもが行っている碑前祭の意義は平和を築いていくための共通の歩みを確認することです。

現在、紛争、災害、事件などで尊い命が失われ、核の脅威にもさらされています。世界には１日１ドルで生活する貧困にあえいでいる人が約12億人います。犠牲は子どもたちを直撃します。１日約３万人が飢餓で亡くなっています。

碑前祭を主催する中学校として、ここに二つのことを発信します。一つ目は、本当の平和とは何かを考え、何らかの歩みを始めること。自分たちの仲間が安心して生活出来る学校づくりから地域、国、世界へと平和を打ちたてる動きを始めたいと思います。二つ目は、原爆の犠牲となった人たちの思いを伝えること。病気の体をおして体験を伝え続ける語り部の方々の思いに心から耳を傾けます。そして、何を受け止め、何を伝えていくかを考えていきたいと思います。

第十一回ユネスコ活動奨励賞 新方針のもとで募集中

広島ユネスコ協会では、現在、第十一回ユネスコ活動奨励賞を募集しています。

協会結成二十五周年を記念して設けられたこの事業は、学校教育、社会教育の現場で国際理解・交流・協力に地道な活動を続け、実績をあげた三十八の学校、三十九の団体を顕彰し、一定の目的を果たしてまいりました。

当協会では、十回の経過を踏まえて、この一年間今後のあり方を検討し、次の**方針**を決定のうえ、今後五年間にわたってこの事業を継続することになりました。

①従来の学校部門に専門学校、大学を、社会部門に企業のグループを加える。②幅広く適確な情報収集のために、第三者を交えた奨励賞候補推薦委員会を置く。③趣旨を「ユネスコ精神の理念を踏まえて〝平和の文化〟を築く実践的な活動の育成と推進に資する」とする。

また、**対象活動内容**は、①国際理解・交流・協力に関すること。②平和を願う「ヒロシマの心」を伝え、核兵器廃絶をめざすこと。③無知を無くし、偏見に囚われない心を育てること。④多様な価値や異なる文化を相互に認め合うこと。⑤世界の人々と知的・精神的連帯を深めること。⑥世界遺産や地域遺産の啓発・保護・継承を図ること。⑦人類が直面している環境や貧困などの地球的課題に取り組むこと――などに継続的な実践活動であること、としています。

これまでに増してユネスコ活動が市民に認識され、国際平和文化都市の協会にふさわしい役割が果たせるものと期待されます。

なお、応募の締切りは、十一月末日としております。

広島市がドーム景観計画素案を発表 当協会、公聴会で意見陳述予定

広島市は七月、原爆ドーム・平和公園周辺地区景観計画（素案）を発表、併せて素案に関する公聴会の開催と意見を述べる公述人・公述申出書の募集を八月、市民に告知しました。

当協会はこれを受け、会長、平和・世界遺産部会、事務局で検討した結果、ユネスコ文化遺産の原爆ドームの景観保護のために公聴会での公述を決め、公述申出書と北川会長を公述人とする申請書を広島市に提出しました。

当初、公聴会は九月三十日に開かれる予定でしたが、広島市が住民説明会の遅れなどを理由に延期（十一月ごろの予定）を伝えてきました。

なお、この度広島市が発表した景観計画（素案）は、周辺地区の高さ基準に関しては一昨年十一月に発表した「景観要綱」に準ずる内容（商工会議所・市民球場三塁側一帯＝二十㍍、原爆ドーム東側＝二十五㍍、原爆ドーム西側対岸・平和大通り南側＝五十㍍、原爆ドーム東側と元安川西側五十㍍地区の中間＝三十七・五㍍）で、今回新たに市民球場を含む城南通り南側の一街区に高さ二十㍍の基準が設けられました。

「世界遺産の周辺にふさわしい品格ある雰囲気と都市的な賑わいとのバランスがとれた都市空間形成」（景観計画・素案の景観策定の趣旨から）からもうかがえる「遺産の品格と賑わい」の葛藤が公聴会の焦点となることでしょう。

十一月の公聴会へ向けて、禍根を残した元安川東詰め高層マンション問題を教訓に、今後協会内で討議を深めます。

（常任理事・亀井　章）

ユネスコ運動全国大会参加報告

「あなたが明日の地球を創る―失われた『勿体ない』の精神を再び―」をテーマに、ユネスコ運動全国大会が、六月七日（土）・八日（日）に東京目黒区目黒パーシモンホールで参加者一二〇〇名余の参加のもとに開催されました。広島ユネスコ協会からは、北川会長をはじめ六名が参加しました。

初日は開会式に続いて全国大会十回出席者表彰と次代を担う会員を対象に一年間研修を終えた第一期生のユネスコ運動推進員認定式が行われました。

二日目は「アジアユネスコ世界寺子屋運動―アジアからの発信」としてインド、カンボジアなどでの活動状況が報告されました。

また、大会実行委員会（杉並ユネスコ青年部など）による地球環境をテーマにした劇が上演され、「劇を観ながらわたくしたち一人ひとりが自分自身の生活を見直し、持続可能な生活のために何ができるのか一緒に考えていただきたい」とメッセージを発信しました。地球の歴史を傷つけた結果、未曾有の危機が迫っていることを数々の事例をとおして訴え、考えさせられることの多いことに驚きを覚えるとともに、「このままでは地球は大変なことになる」「わたくしたち一人ひとりができることから始めよう」という主旨の青年の発表に感動しました。

基調講演は東京大学名誉教授の安井至さんの「地球の未来と持続的に取り組む科学技術の今」。シンポジウムは「あなたが明日に地球を創る」をテーマにモデレーター制作大学院教授永野博市さん、パネリスト三名で行われました。

（内容省略）

次回は二〇〇九年十一月七日（土）・八日（日）に横浜市で開催の予定。

（事務局長・山本隆信）

特別寄稿

アメリカ東部で証言活動

若い世代に積極的に働きかけ

北川建次

二〇〇八年三月四日から八日間、平和文化センターの被爆体験証言活動の一環として、アメリカにおける証言活動の一部担当に加わらせてもらった。平和文化センターや関係各機関、各人に大変お世話になり、厚くお礼を申し上げたい。

場所はアメリカ合衆国東部のフィラデルフィア州レディング市（三月四日～七日）、続いてニュージャージー州サウスオレンジ、ニュープロビデンス市（三月七日～十日）。

これらの地域は、アメリカ東部で、アメリカの政治、経済、文化の中心地であり、このような地域で被爆体験証言活動を行い、核廃絶、ノー・モア・ヒロシマズの運動を進めることは、とても重要であり、効果あることである。

時期的には厳冬期は過ぎていたが、やはり、かなり寒くて、日本の東北、北海道と同じ気候帯である。ツバキ、クスノキなど常緑樹は殆んど見られず、落葉樹林帯で、枯木のような寒々とした時期であった。

また、アメリカは、サブプライム問題があるとは言え、世界最高の富裕国であり、訪れた二地域とも中流住宅地帯で、四～五百坪の樹林に囲まれた住宅地帯が延々と続き、その中に学校や教会、IT関係の工場が点在する。日本のいわゆる兎小屋地帯とは格段に違った裕福さを感じさせた。

また、いわゆるアングロサクソン系が多く、ラティーノや黒人、アジア系の多い南部や西部とは、また違った精神風土であるかも知れない。

さて、話が少しわき道に外れたかもしれないので、本題にかえって、アメリカなど外国で証言活動を行う場合は、相手国の実情をよく調査し、我々の活動に協力、助けてくれる人材、コ・オーディネイターを見つけることが大切である。聴衆もまた核廃絶、原水爆禁止に関心をもつ人々でなければならない。

今回は、日本側もとくにアメリカ人である平和文化センター理事長のスティーブン・リーパー氏が準備に当たられ、アメリカ側でもっとも当を得た人がコ・オーディネイターになられた。それによってもっとも効果ある原爆展の展示となり、また証言活動となった。外国では、現地の状況の把握が難しく、事業の効果をあげることは、大変難しい。その点、今回は日本側もアメリカ側もうまくいった例といえよう。

レディングではシスターのサンドラ・ライアンさん、ニュープロビデンスでは高校教師のミカエル・ミッチェルさんが居られ、いずれも熱心に原爆展の展示、証言活動に助力いただき、大きな成果をあげることができた。

レディングでは、ライアンさんの属する教会及び協会で原爆展、証言活動を行った。パワーポイントによる映像とリーパーさんの通訳による講話は、映像つきで具体性があってより効果をあげることができた。地元紙やテレビ局もとりあげてくれ、現地の人々もかなりの関心をもってもらった。ライアンさんは、シスターといっても、平服で、僧衣はまとわず、かなり広い立場からカトリックの布教や経営の問題に当たっている人であった。

ニュープロビデンスでは、ミッチェルさんの全面的支援があり、市長とも面会し、非核都市連合に加わっていただくことができた。また、シートンホール大学では、原爆展の展示を行い、教職員や学生に多大の反応があった。具体的な原爆被害の実態を知らない彼らにとっては、大きな反響を呼び、リーパーさんやミッチェルさんに質問が多く寄せられた。

被爆体験の証言は、ミッチェルさんの高校と地区の図書館ホール、コミュニティの教会で三回行った。高校では、若い高校生に原爆・核兵器の恐ろしさと、二度と核兵器を使ってはならないことを認識させることに意を注いだ。いずれもリーパーさんの通訳があり、質問にもリーパーさんが答えられて良かったと思う。いずれも核兵器の恐ろしさ、被害の実態がよく知られておらず、人類を破滅させてしまうとの認識が十分でないことを痛感した。

また、アメリカの原爆投下の正当性を信ずる人が多く、その誤りを正していくことの困難さを強く感じた。

いずれにしても、アメリカは世界最強の国であり、核保有数も飛び抜けて多い。また核の抑止力がなお有効であると信じている人が多く、このような考えを是正していく努力が最も必要な国である。

しかし、多くのアメリカ人は、依然として核の有効性、正当性を信じている人が多い。その中で、大河の一滴かも知れないが、「アメリカの良心」は依然として健在であることも確認した。ライアンさんやミッチェルさんのような、地の塩の人、大河の流れの中の水の一滴のような人は健在なのである。

繰り返えすようであるが、現地での原爆展や証言活動は、テレビや新聞、地域社会のニュースとしても取り上げられ、かなりの反響を呼んでいる。とくに、アメリカの中枢部である東部で、このような活動ができ、反響があったことは嬉しいことである。

さらに重要なことは、アメリカの高校生、大学生など次代を担う若い人々に積極的に働きかけ、関心をもってもらうことが幾分でもできたこと、この点であろう。

（広島ユネスコ協会会長）

特別寄稿

G8下院議長会議で体験を証言

「核廃絶は被爆者の悲願」を訴える

高橋昭博

平成二十（二〇〇八）年九月一日から二日まで、「平和と軍縮に向けた議会の役割」というテーマで、「第七回G8下院議長会議」が広島で開かれた。

行政府だけでなく、議会レベルでも、世界各国からG8のリーダーシップが期待されている中、議会を代表する議長同士が一堂に会し、「各国議会間の協力活動と国際化に伴う議会の役割など」について、忌憚のない意見交換を行うための会議である。

日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ、ロシアの各国下院議長と欧州議会の議長がゲストとして参加した。

これまでは、カナダのキングストン（一回目、二〇〇二年）、フランスのパリ（二回目、二〇〇三年）、アメリカのシカゴ（三回目、二〇〇四年）、イギリスのグラスゴー（四回目、二〇〇五年）、ロシアのサンクトペテルブルク（五回目、二〇〇六年）、ドイツのベルリン（六回目、二〇〇七年）。いずれも九月に開催されている。

そして、今年、七回目が広島で開かれたのである。衆議院議長河野洋平氏の並々ならぬご努力、ご尽力の賜物と言われている。

九月二日早朝、原爆死没者慰霊碑への参拝と献花のあと平和記念資料館を見学された。その中途、私が被爆体験をお話した。十分少々ということだったので、あらかじめその時間にあわせた原稿を作成した。私は、体調の関係で座って話した。そのため、議長さんにも座ってもらうよう、あらかじめ平和文化センターから衆議院事務局へ交渉してもらったが、短い時間だから立ったままで聞くとの返事だった。

恐縮しながら、私は被爆体験を語り始めた。「被爆時、私は、中学二年生、十四歳でした。一九四五年八月六日、原爆が投下される前、いったん発令された警戒警報、空襲警報はすでに解除されていました。ですから、私たちは安心して校庭に出て、朝礼が始まるのを待っていました。校庭には、私のクラスおよそ六十名を含めて百五十名ばかりの生徒がおりました。警報が解除されていたにもかかわらず、なぜかアメリカのB29一機が上空にいたのを覚えています。これが原爆を積んでいたとは、夢にも思いませんでした」。画家の四国五郎さんが描いてくれた絵を、紙芝居風に議長さんにお見せしながら、話を進めていった。

「逃げる途中で沢山の被爆者の行列に出会いました。みんな両手を前にぶらさげています。身体の皮がめくれて、ぼろ切れのように指先からぶらさがっています。赤身がむき出しになっています。みんな足を引きずりながら、ふらつきながら逃げていました。」

「その行列の中には、大変ひどい被害を受けていた人がかなりいました。上半身ガラスだらけの男性、片方の目の玉が飛び出し、全身血だらけの女性、上半身の皮が全部めくれて、赤身がむき出しになっている男性。それは、それは、直視できない悲惨なものでした。……」

アメリカの女性下院議長のナンシー・ペローシ女史がかすかに涙を浮べておられたのを私は気づいていた。

私は、被爆の惨状をかいつまんで話したあと、「世界には、現在二万六千発の核兵器があり、そのうち、九十五％をアメリカとロシアが保有しています。ですから、アメリカとロシアが廃絶への強い意思を世界に示してください。そして、すべての核保有国は一日も早く核兵器の廃絶を成し遂げてください。」と、強い口調で訴えた。

最後に「核兵器が廃絶されてこそ、被爆死した人たちは初めて浮かばれるというものです。」と結んだ。

最後までお見送りした、前田平和記念資料館長にナンシー・ペローシ議長が「ミスター・タカハシ　イズ　ビューティフル！」というお言葉を残されたそうだ。英語が堪能な方々に聞いたところ、「ビューティフル」という言葉は、単に「美しい」ということではなく、「すばらしい」とか「立派だ」という意味が含まれるということだった。私にとって、光栄このうえないことだった。

全国各地の友人や知人から手紙や電話が届いた。「テレビを見ました。」、「新聞を読んだよ。」と。

その中に、小学校三年生の時被爆し、半身に大火傷を負った、妻の親友がいた。彼女は団体にも属さず、何ひとつ世に訴えることもしなかったが、今回、「高橋さん、大変お疲れ様でした。大変でしたね。ありがとう、本当にありがとうございました。」と言った。「ご苦労様でした。」とか「よかったよ。」という言葉は沢山いただいたが、一人の女性被爆者からの「ありがとう」は、本当に心に沁みた。

私はこれまで数え切れないだけ「被爆体験と平和について」語ってきたが、このたびの心に残る数々のできごとは、決して忘れることはないだろう。

（広島ユネスコ協会副会長）

国際交流イベント

ぺあせろべ2008

広島に住むさまざまな国籍・文化の人たちが集まり、交流するお祭り「ぺあせろべ」が、ことしも十月二十六日（日）午前十時から中央公園芝生広場（中区基町）で開催されます。

第二十五回目を迎える今回は、「あすに向かって……」をテーマに広島市を中心に活動する団体や機関が参画して、ステージやブースで世界の国や地域の器楽演奏や舞踊、歌の披露、物産や料理などの紹介がされる予定です。また、フィールドではアウトドアゲームなどが繰り広げられます。

当協会は、ブースや広場を利用して、創作教室やミニ凧づくり、また竹馬、竹トンボ、しゃぼん玉、火おこしなどの伝承遊び体験コーナーを設けます。

隣の広場ではフードフェスタも開かれるなど賑やかな一日となりそうです。

みなさんおそろいでご参加ください。

国際交流・協力の日

「見つめよう地球、学ぼう世界」をメインテーマに、「国際交流・協力の日」が、ことしも十一月十六日（日）午前十時から午後四時まで広島国際会議場とその周辺で開催されます。

この催しは、おもに広島市内で活動を続ける市民団体、企業が中心となって二〇〇〇年度から毎年開催されているもので、今年で九回目となります。

「学び」を基調とした様々な国際交流・協力に関する事業を行い、来場者のみなさんに楽しみながら外国文化に触れていただくことを趣旨とし、子どもから大人まで楽しめる内容になっているのでご家族でお気軽に参加くださいと実行委員会では呼びかけています。

内容は、山形在住の精神科医でNPO法人「地球のステージ」代表理事として、これまで五十六か国を歩き国際医療活動を展開中の桑山紀彦さんが案内役となって、ライブ音楽と大画面の映像と語りで構成される「ステージ3国境なき大地」や、団体活動紹介・発表、食のバザー、異文化体験、ワールド探険ラリーなど多彩になっています。

当協会も活動紹介コーナーに参画します。多くの会員の参加をお願いします。

日誌

〈2008年5月〉

16日／理事会　総会議案について（国際会議場）

20日／機関紙第六十九号発行

21日／会計監査

24日／第百三十四回ユネスコサロン「ヒロシマ独立論」以後～「国際平和文化都市」を日常から問いなおす～文化活動家・東琢磨（立町キャンパス）

24日／二〇〇八年度総会（立町キャンパス）

26日／ソロプチミスト広島中央から寄付金受領

〈6月〉

7・8日／第六十四回日本ユネスコ運動全国大会イン東京　北川会長外五名

27日／協会結成三十五周年と受賞・出版を祝う会（中山修一・宇野豪、柴田幸子）（エンゼルパルテ）

〈7月〉

12日／第百三十五回ユネスコサロン「ふしぎ探検・右の謎に迫る」元中国放送ディレクター小澤康甫（市民交流プラザ＝以下交流プラザ）

12日／理事会（交流プラザ）

12日／「ユネスコ運動の日」街頭キャンペーン、チラシ配布（交流プラザ前）＝写真

26日／広島市民文化大学来場者へ加入勧誘、活動資料配布　組織部会・事務局（国際会議場）

〈8月〉

12日／ユネスコ活動奨励賞検討会　教育部会・事務局（国際会議場）

15日／「平和の鐘を鳴らそう」（原爆の子の像前広場）

22日／日退協へ加入勧誘　組織部会（広銀銀山町支店）

26日～28日／原爆ドーム・平和公園周辺景観整備公聴会打合せ　平和・遺産部会・事務局・景観を守る会

〈9月〉

2日／G8下院議長会議で高橋副会長被爆体験証言

4日／大邱訪問団歓迎会・調印式打合せ　国際部会・事務局（県民文化センター）

5～14日／世界遺産パネル展（交流プラザ）

6日／第百三十六回ユネスコサロン「天体衝突から地球を救う～スペースガード計画」東亜天文学会評議員佐藤健（交流プラザ）

6日／理事会（交流プラザ）

15～17日／ユネスコ活動奨励賞推薦委員会就任依頼（中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターほか）

24日／大邱訪問団受入れ打合せ（県民文化センター）

26日／機関紙編集会議　広報部会（交流プラザ）

29日／大邱訪問団受入れ打合せ（交流プラザ）

〈10月〉

3～6日／大邱協会親善訪問団（六名）来日歓迎会・姉妹協会協定書調印式　一般参加者五十三名（エンゼルパルテ）

25日／機関紙第七十号発行